

# モンゴルの社会変革と日本語教育1994

新潟大学 土屋 千尋

## 0. はじめに

1994年10月18～20日、国際交流基金の援助をうけて、モンゴル国立国民大学で開催された「モンゴルの小・中・大学における初・中級日本語教育」ワークショップに、筆者は、コーディネーターとして参加した。このワークショップが開催されるにいたった経緯とその状況をのべることにより、「民主化」(土屋順一 1991)後、社会変革のなかにあるモンゴルの日本語教育について、報告する。

## 1. モンゴルの教育制度

初等中等教育は10年間である。そのうち、8年間は義務教育期間である。小学校、中学校とわかれておらず、8年間あるいは10年間、一貫教育である。18歳で大学(5年制)に進学する。従来、モンゴルでは、モンゴル国立大学(現在はモンゴル国立国民大学に改称)が唯一の総合大学であり、そのほか、教育大学、工科大学、ロシア語大学(現在は外国語大学に改称)、経済大学、ホブド県にあるホブド教育大学があった。旧社会主義圏の大学に留学する者もおおく、留学先はロシア、ついで旧東ドイツがおおかった。

## 2. 1990年以前の日本語教育機関

1975年、モンゴル国立大学モンゴル語学文学科に、副専攻(3年生からはじめて3年間)として日本語コースが開設された。これがモンゴルの正式な機関での日本語教育のはじまりである。国際交流基金から日本人講師の派遣も同時に開始された。以後、15年間、毎年3～5人の学生が日本語コースを選択し、少数精鋭の教育がおこなわれてきた。筆者は、89年10月から90年9月まで、国際交流基金の派遣講師として、日本語教育にたずさわった。筆者が着任した89年には、モンゴルの日本語教育機関は、モンゴル国立大学と平和委員会の日本語講座、2か所だけであった。

## 3. 1990年以降の日本語教育機関

1990年10月、モンゴル国立大学の日本語コースは日本語学科(主専攻)に昇格し、初年度、新入生をむかえた。大学の教育年数は、5年制から4年制となった。このころから、「民主化」で不人気になったロシア語にかわって、日本語、英語、中国語がブームとなり、ウランバートルのあちこちで日本語教育機関がではじめた。

1991年7月20日、「私立大学や専門学校を自由につくってよい」という教育法が制定され、日本語教育機関設立にますます拍車をかけることとなった。特に、私立大学がたくさんつくられた。しかし、なかには、教員も教材もない、それどころか、教室もないあやしげな機関も存在したのである。

#### 4. ワークショップ開催

##### 4.1. 開催の経緯

私立大学乱立の中にあつて、モンゴル教育省は、大学設置基準の管理をモンゴル国立国民大学にまかせることにした。その命をうけて、国立国民大学はまず、日本語教育機関の実態調査にのりだした。その調査結果をまとめたものが、表；「モンゴル国の日本語教育一覧(1994)」(注1)である。表中の Tsagaan Shuvuut 大学は、95年9月現在、廃校になっている。その一方で、経済カレッジという学校が新設されているらしい。経営不振の機関がつぶれていく一方で、また、あらたな学校がうまれてきているのである。

さて、実態調査のなかで、現場の教師から、かずおおくの問題点が指摘され、それを解決する方策をかんがえるために、ワークショップ開催のはこびとなった。

##### 4.2. 開催状況

10機関から教師があつまり、それぞれの機関の現状が報告された。また、日本大使館文化担当官より、日本(主に国際交流基金)からどのような教育支援プログラムがあるか説明がなされた。

問題点は次の3点にしばられた。

- 4.2.1. 教科書がない
- 4.2.2. 教師がない
- 4.2.3. 制度が不備

4.2.1. 表をみてもわかるように、「日本語初歩」使用が圧倒的である。これは、現在、出版されている日本語教科書に関する情報がすくないため、モンゴル国立国民大学で使用しているからということで、安易な選択がなされているのである。また、教材機材を国際交流基金の寄付にたよっていることも原因のひとつにかんがえられる。

大学等の成人むけの教科書については、「モンゴル人のための日本語教科書初級」を筆者とモンゴル国立国民大学の日本語学科のスタッフと共同で、現在、作成中である。

さて、「日本語初歩」は、初等中等教育にはふさわしくない。まず、各課であつかっているダイアログの内容が不適切である。第54学校で使用されている「ひろこさんの日本語」は、子どもが興味ぶかくまなべる教科書として紹介された。他に、「にほんごをまなぼう」「にほんごかんたん」「モジュールで学ぶよくわかる日本語」の紹介もあった。参考として、東京都教育委員会発行の「外国人児童用・生徒用日本語テキスト たのしいがっこうモンゴル語版」の紹介があった。

また、初等中等教育用教材選定にあたって、文字の問題がとりあげられた。漢字が負担だというのである。モンゴルでは、「民主化」によるモンゴル民族主義の復活で、1946年に制定されたキリル文字によるモンゴル語の表記は、それ以前のウイグル文字に1994年をめざしてもどすことになった。しかし、すべて、ウイグル文字にもどすことはなかなか困難なので、1994年秋には、キリル文字も公用文字としてのこすことになった。したがって、日本語をまなぶモンゴルの児童たちは、ウイグル文字、キリル文字、ひらがな、かたかな、漢字、なんと5種類の文字をまなぶことになるのである。いくら子どもの記憶力がよいからといって、これはたいへんな労苦である。

そこで、筆者は、コーディネーターの立場から、次のような提案をした。日本語教師は無意識のうちに、日本語教育＝文字教育とかがえてはいまいか。教師自身が、文字を重視するかんがえから、解放されなければいけないのではないか。そして、まったく文字をおしえない言語教育もあることを紹介した。児童対象の言語教育では、おもしろくてたのしいことが、第一条件であると、筆者はかんがえる。最初から、3種類の文字をつめこむことは決してたのしくないであろう。日本語＝文字＝たいくつ、こんなことが、モンゴル児童の記憶にすりこまれていったとしたら、たいへん残念なことである。また、実際、文字重視の教育は、音声教育軽視につながっていることがおおい。これはなにも児童にかぎったことではなく、私立大学や専門学校にもいえるのであって、学習者のニーズによって、文字教育のアプローチのしかたをかえることが重要である。

ところで、子どもの宮殿や第23学校の課外活動では、歌やゲームがとりいれられており、成果をあげているとの報告があった。課外活動といわず、メインの授業にどんどんとりいれていったほうがよいとの結論になった。今後、このような要素をふんだんにとりいれたたのしい初等中等教材がどんどん開発されていくことがのぞまれる。

4.2.2. 青年海外協力隊の派遣講師や現地雇用の日本人講師がふえるにつれて、数的にはすこしずつ解消されている。これからは、日本人スタッフが現地人スタッフとよりつよい連携をもち、さまざまな助言・指導をしていくことがのぞまれる。さらに、これら日本人スタッフを指導するスーパーバイザーが必要とされる。

4.2.3. 現在、私立大学の大学設置基準はモンゴル国立国民大学にまかされている。各大学が独自の教育方針をもって日本語教育をおこなっているわけではない。モンゴル国立国民大学の受験に失敗した人が私立大学へいくというケースがおおい。私立大学の2年は国立大学の1年に相当し(したがって、学費も私立大学の方がやすい)、私立大学2年終了時に、国立大学の新2年生へ転入する可能性がある。学習者のたちばからみると、私立大学は、国立大学にはいるための予備校のような性格ももっている。教員のたちばからみると、私立大学は、国立大学の教員になれない者の就職先である。

## 5. 将来へむけて

「民主化」後の社会変革のなかにあつて、日本語教育が急激に変化してきている点は、モンゴルも東欧諸国もおなじである。しかし、東欧では私立大学が乱立するということにはなかつた。また、きくところによると、インドネシアでもモンゴルとにたような状況にあるらしい。これはアジア的現象なのであろうか。

ところで、日本語教育をおこなう初等中等教育機関数の増加は、モンゴルも東欧諸国もおなじ状況にある。初等中等教育機関で日本語教育をうけた者がさらに、大学でも日本語教育をうけるとなると、大学では、ちかい将来、未習者と既習者を同時にうけいれることになる。大学側のきめこまかな対応が要求される。また、ワークショップでの報告によると、初等中等教育機関においては、日本語教師は、ただ、日本語をおしえていればよいのではなく、児童に対するしつけ教育もおこなわなければならないということである。これに関して、わかい日本人教師から、どこまでふみこんでいったらよいか、まようことがあるというなやみがのべられた。これは、モンゴルの現地人スタッフとの協力なしには解決できない問題である。

当面の問題、および将来的な問題を解決するためにも、日本人スタッフと現地人スタッフの連携は不可欠である。今回のワークショップを機会に、ネットワークを強化させていくこと、研究会を定期的にひらくことが約束されたのは、おおきな収穫であった。

注1

表中、Mとあるのは、モンゴル人スタッフのことである。

参考文献

土屋順一「モンゴル人民共和国の『民主化』と日本語教育」『第4回日本語教育連絡会議総合報告書』 1991年12月

土屋千尋「モンゴルで日本語を学ぶ人々とその生活」『しにか』vol. 13/No.10 大修館 1992年10月

東京都教育庁指導部初等教育指導課 『外国人児童・生徒用日本語テキスト たのしいがっこう(モンゴル語)』 1994年3月

東京都教育庁指導部初等教育指導課 『外国人児童・生徒用日本語テキスト 教師用指導書 たのしいがっこう(モンゴル語)』 1994年3月

表；モンゴル国の日本語教育機関一覧(1994)

機関名	学習者数	授業時間数	スタッフ	使用教材	レベル・目的
モンゴル国立 国民大学	110名 (30×4-a)	16/W	M 4名 基金1名 協力隊1名	日本語初歩・表現文型・ 日本語Ⅱ	専門家・教師養 成
外国語大学	62名 (12/20/20/10)	24-26/W	M専任3名 M非常勤4名 協力隊1名	日本語初歩・基金中級・ 表現文型・日本語Ⅲ・ニュー スで	専門家・教師養 成
Otgontenger大学	50名程度?	?	M? シルバー1名	にはんごのきそ	?
Tsog大学	75名 (27/18/17/13) 126名(夜間)	15-17/W 8-10/W	M専任2名 日本人1名	日本語初歩・漢字入門・ 日本語ⅠⅡⅢ	ガイド養成
国立教育大学	55名	6/W	M非常勤1名	?	ガイド養成
Orkhon外国語 大学	90名	20-22/W	M 3名	日本語初歩・基金中級・ 日本事情1 2	翻訳者養成
TsagaanShuvuut 大学	?	?	M?	?	?
Medleg大学	?	?	M?	?	?
モンゴル民族 言語文明科学院	94名 (19/26/25/24)	12-14/W	M専任1名 M非常勤2名 日本人2名	?	?
モンゴル国立国 民大学モンゴル 研究所	68名 (19/20/4/7/18)	4-10/W	M専任1名 日本人1名	日本語初歩	ガイド・翻訳者 養成
アカデミー付属 工科大学	?	?	?	?	?
平和委員会 日本語講座	?	?	?	?	?
Nakhia 日本語教室	65名	4/W	日本人1名	標準日本語	翻訳者・教師養 成
ロシアモンゴル 第3学校	50名	6/W	協力隊2名	新日本語の基礎	初等中等教育 (選択)
第3 8学校	80名?	?	日本人1名	?	初等中等教育
第5 4学校	29名	3/W	M 1名	ひろこさんの日本語	初等中等教育
第2 3学校	260名 (40/40/40/40/2 0/20/20/20/20)	3-5/W	協力隊1名 日本人1名	日本語初歩・Japanese for Today	初等中等教育
子どもの宮殿	?	?	日本人1名 M 1名	日本語初歩	初等教育
合計	1200名以上		日本人15名		